

令和6年度

第3回木更津市史編集委員会

開催期間 令和7年3月3日（月）～13日（木）

開催方法 書面開催

報告事項

第1号 木更津市史編さん部会調査等進捗報告

第2号 『木更津市史 自然編 資料』の刊行について

第3号 『木更津市史編さんだより 第9号』発行について

第1号 木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部会名	考古部会	部会長名	加藤修司
-----	------	------	------

<p>令和6年4月から 令和7年3月までの 実施内容・進捗状況</p>	<p>(1)刊行の見通し 2026年度に考古1(古墳時代)考古2(奈良・平安時代、中・近世)、2027年度に考古3(旧石器・縄文・弥生時代)の刊行を目指している。</p> <p>(2)原稿執筆等の進捗状況</p> <p>① 考古1(古墳時代)は123遺跡掲載予定の内105遺跡が原稿執筆まで完了。デジタル編集及び挿図・写真のカラー化は99遺跡が完了している。本文の修正・校正を併せて実施している。</p> <p>② 考古1は総ページが1650ページ程になるので3分冊の方向で検討中。</p> <p>③ 考古2のうち奈良・平安時代は58遺跡掲載予定すべての原稿執筆が完了している。挿図・写真のカラー化も90%程度完了している。現在は本文の修正・校正を進めている。</p> <p>④ 考古2のうち中・近世は掲載遺跡の絞り込みを行っており、11遺跡の原稿・挿図・写真が完了している。資料のカラー化等についてはどこまで実施するのか、担当委員と今後協議を行う予定である。</p> <p>⑤ 考古2は500～550ページ程度になる予定であるため分冊は不要と考える。</p> <p>⑥ その他、人骨鑑定・石造物については掲載方法、内容について今後再協議を行う。</p> <p>(3)デジタル編集の進捗状況 考古編はすべて adobe 製の InDesign によるフルデジタル編集を行い、印刷業務の大幅な費用縮減、期間短縮を目指している。現在までに完成した原稿本文・挿図・写真はすべて InDesign に配置済みである。未完成の作業は</p> <p>① 挿図のキャプション文字・スケール文字の拡大等の修正</p> <p>② 写真のカラーモード(RGB)をすべて「紙印刷用」(CMYK)に変更(これまでデジタルアーカイブ用に編集していたため)</p>
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<p>(1)考古1(古墳時代)の分冊方法について担当者、事務局と具体的な協議が必要。</p> <p>(2)掲載挿図・写真の著作権や掲載許可の事務処理について事務局との協議が必要。</p>

部会名	古代部会	部会長名	吉井 哲
-----	------	------	------

<p>令和6年4月から 令和7年3月までの 実施内容・進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月末の「史料編4 古代」の刊行をうけて、「正誤表」の作成に取り組んだ。校正等を経て、正誤表の完成後、関係者への発送・一般市民等への販売が開始された(4～6月) ・通史編の刊行に向けて、以前に作成した「目次案」を基に内容を検討し、古代部会での協議も行った。(6～7月) ・上記、により作成した執筆項目案を基に、考古部会との協議を実施し、通史編執筆に向けての基本的方針について確認した。(9月) ・「史料編4 古代」の増刷に向けて、追加の修正事項の検討を行った。また口絵に掲載されている木簡の図版については、木更津市郷土博物館の協力を得て、撮影を実施した。2度の校正を経て修正を行った。(11～1月) ・「通史編」執筆に向けて、木更津・袖ヶ浦市域の関係遺跡等の現地調査を行った。(11月) ・引き続き、「通史編」の目次案並びに執筆分担等について検討を進めている。(1～3月)
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「正誤表」の作成については、刊行直後では、十分に内容を確認することは困難であり、1年後くらいに行う方が望ましい。 ・「史料編」の刊行については、増刷が決まったとはいえ、当初の発行部数があまりにも少なく、関係者(機関)への配付も行き届かないのは問題である。今後は当初(1刷)の発行部数を増やすように検討していただきたい。 ・通史編の執筆に向けて、現在の3名の部会員のみでは分担しきることは不可能であり、新たな部会員の加入や執筆者依頼が必要である。しかしながら、公的機関に勤務されている方は、兼業が困難で執筆依頼ができず苦慮している。何らかの方策を講じていただくと痛感している。

部会名	中世史部会	部会長名	滝川恒昭
-----	-------	------	------

<p>令和6年4月から令和7年3月までの実施内容・進捗状況</p>	<p>かねてから、最重要調査対象としていた富津市三柱神社旧蔵観音菩薩像の所在が、このほど事務局の方のご努力によって判明し、12月17日、千葉県立中央博物館において仏像の専門家を含めた戦国部会・事務局による現物調査が実現した。この仏像は、上総武田氏の人物と思われる「源道存」が天文3年に檀那となって作成されたことがその銘文から判るが、銘文自体は昭和初期の写ししか知られていなかった。そのため解読難い文字もいくつか存在し、その判別結果次第では大きな問題が生じることから、現物の出現とその銘文の精査がもとめられていたのである。このほど初めて現物に記された銘文が赤外線を含めたカメラで撮影できたことにより、従来不明だった箇所もほぼ解読可能となり、木更津市史中世編のメインテーマである上総武田氏に関する史料として、口絵写真にも利用できるものとなったことは大きな収穫であった。</p> <p>また今年度には、川戸委員がぬけて空席となっていた戦国部会に、新たに岡田晃司・江澤一樹氏が入り、それぞれの分担領域(時代・対象)についても確認し、引き続き資料収集に取り組んでもらうことになった。</p> <p>さらにこれまでは、部会員各自が分担領域について史料の収集作業をすすめてきたが、資料集刊行に向けて、それらをここでまとめ・集約する必要があると思われる。これからその連絡と作業をすすめ、次年度の課題を明確にし、資料集刊行の具体的な作業に入るべきであると考えている。</p>
<p>これまでの取組に係る課題点・懸案事項</p>	<p>このほどようやく三柱神社旧蔵の仏像調査が可能となったが、同様な資料・調査対象はまだ多く残されており、その所在追求と調査の実現が、さらに必要となることはいうまでもない。中世資料集の目玉となるような史料や新発見の史料が乏しい現状では、従来の資料集の焼き直しのようなものになる恐れもあり、残された時間と予算のなかで、いかに特色を出せるような資料集を刊行するか、それをこれから詰めていく必要がある。</p> <p>武田氏関係では、その祖である武田信長関係資料調査を山梨県で実施することを計画していたが、これまで実施できていない。最後の詰めとしても実施する意義があるかと思う。</p>

部会名	近世部会	部会長名	小関 悠一郎
-----	------	------	--------

<p>令和6年4月から 令和7年3月までの 実施内容・進捗状況</p>	<p>○史料調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 重田家:新出を含む史料の目録作成中 八劔八幡神社:部会作成の既出史料リストに基づき史料撮影実施済 鈴木真家:墓碑について訪問調査実施済(『ふるさと富来田の古文書』所収史料の所在有無を確認中) 織本家:文書館収蔵県史収集資料の撮影実施済 千葉県文書館収蔵諸史料継続調査中 <p>※ 鳥海治夫家、小浜斎藤家等、調査(可否確認)をすべき個人所蔵史料が複数残っている。</p> <p>○部会打合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 6～8月に3回にわたりオンラインで部会打合せを実施 史料編各章節の担当者による掲載史料リストの作成・検討実施 史料編の紙面サンプル作成・検討実施 <p>○史料翻刻</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成した掲載史料リストに基づき、次年度の翻刻対象史料を選定(外部委託予定) 紙面サンプル作成を通して一部史料の翻刻を実施 翻刻ボランティアの方への連絡・調整の実施
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度は、事務局のご尽力により、これまで懸案だった史料群の調査がいくつも進むなど、大きな成果があがった。次年度も引き続き、同様の進展があるよう、引き続き事務局の体制を整備していただきたい。 刊行に至るまでの課題として、各委員の作業時間の確保があげられる。部会のみで編さん作業を進めた場合、作業が遅れかねない状況であるため、事務局側からも適時適切に部会に対するアナウンス等いただけると幸いである。

部会名	近現代部会	部会長名	池田 順
-----	-------	------	------

<p>令和6年4月から 令和7年3月までの 実施内容・進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県文書館で戦後における木更津市域の新聞記事の調査・撮影、および文書館に所蔵されている県庁文書から木更津市域の史料の調査・撮影を行った（進捗状況85%程度）。 ・千葉県教育会館所蔵の『千葉教育』から教育関係記事の調査・撮影を行った（終了）。 ・袖ヶ浦市の多田正行家文書の目録作成と撮影を行った（終了）。 ・畑沢の水越康男家文書の目録作成と撮影を行った（進捗状況80%程度）。 ・木更津市立図書館所蔵の根本家文書・山口家文書などの調査・撮影等を行った（終了）。 ・建築班の委員が、各地の建築物に関する調査を実施した。 ・令和7年度における近現代史料編1の刊行に向け、各委員が担当分野の掲載候補史料の選定を進め、選定史料の筆耕を行った。史料の筆耕については、委員が行うだけでなく、3名の千葉県文書館職員にも依頼した。掲載候補史料の選定と史料の筆耕は、おおむね終了している。
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<p>令和7年度は、史料編1掲載史料の割付け・校正など細々とした作業が中心となる。 その際、委員が印刷業者と緊密な連絡がとれるよう配慮してもらいたい。</p>

部会名	自然部会	部会長名	山田 真
-----	------	------	------

<p>令和6年4月から 令和7年3月までの 実施内容・進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「木更津市史自然編 資料」の校正作業 2校まで終了 3月末に出版の予定 ・デジタル部会員選出 木暮部会員に決定 ・「木更津市史自然編 総論」(仮称)の原稿について 2028年度末発行の予定であるが、できれば2027年度末に発行が可能となるように、各部員鋭意執筆作業を進めている
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員の高齢化 何とか若い部会員を増やせないものか ・いくつかの分野での専門家の不在 コケ類、藻類、地衣類、菌類、土壌動物、プランクトン類など 市史であるので、できる限りすべての生物を網羅したい

部会名	民俗部会	部会長名	
-----	------	------	--

<p>令和6年4月から 令和7年3月までの 実施内容・進捗状況</p>	<p>4月:市史編さん室で旧金田村役場文書調査状況確認、調査継続 6月:金田漁協組合聞き取り調査 7月:波岡地区聞き取り調査・八剣八幡神社祭礼調査 8～9月:故田村民俗部会委員宅資料調査、目録作成・公民館職員会議参加説明 10月:故田村民俗部会委員宅資料調査、目録作成・新田地区祭礼調査・上烏田地区講調査・金田瓜倉地区聞き取り調査・畑沢小浜地区聞き取り調査・君津市蓮久寺調査 11月:桜井地区、波岡地区聞き取り調査・図書館在館文書調査 12月:瓜倉見立地区聞き取り調査・図書館在館文書調査・千葉県立中央博物館所蔵資料調査・小浜地区聞き取り調査・下郡地区聞き取り調査・伊豆島地区聞き取り調査 1月:図書館在館文書調査・永井作地区講調査・根岸地区講調査 2月:小浜地区の講の調査・町場重田家聞き取り調査 3月:岩根地区聞き取り調査・江川地区聞き取り調査</p>
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<p>聞き取り調査のため区長への調査協力要請が必要 部会長不在 情報共有が困難 6年度は各委員が調査をそれぞれに行うスタイルから開始したが、集約の方向性を打ち出す時期になったのではないかと 過去の民俗と現在の民俗があるがどう取り扱うか</p>

第2号 『木更津市史 自然編 資料』の刊行について

現在木更津市史デジタルアーカイブで公開中の『木更津市史 自然編 資料』を刊行するものです。



木更津市史デジタルアーカイブ URL : <https://adeac.jp/kisarazu-city/>

木更津市史デジタルアーカイブアクセス数		
令和6年度	月アクセス数	通算アクセス数
令和5年度末		202,467
4月	6,355	208,822
5月	13,550	222,372
6月	6,182	228,554
7月	4,575	233,129
8月	4,515	237,644
9月	4,451	242,095
10月	4,416	246,511
11月	6,914	253,425
12月	4,063	257,488
1月	4,495	261,983

第3号 『木更津市史編さんだより 第9号』発行について

『木更津市史編さんだより第9号』を発行し、木更津市公式ホームページに公表しました。



木更津市公式ホームページ 木更津市史編さん事業

URL : <https://www.city.kisarazu.lg.jp/soshiki/kyoiku/bunka/1/3744.html>